

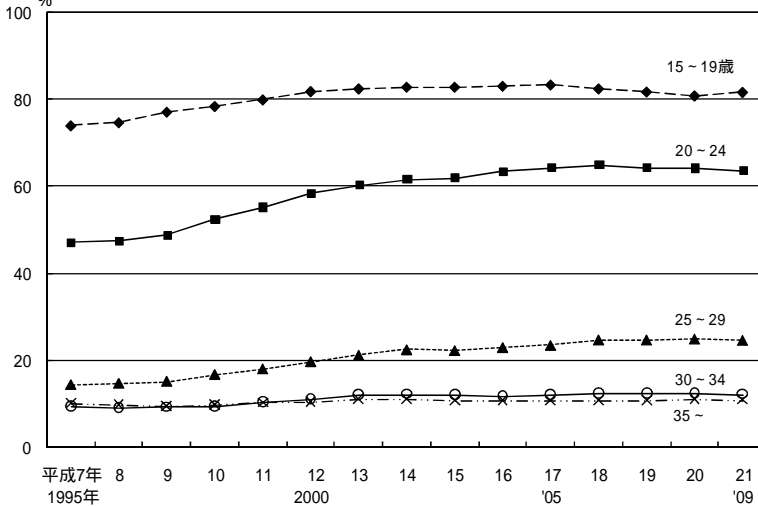


## 4人に1人が「できちゃった結婚」だった

～ 厚生労働省「平成22年度『出生に関する統計』の概況」より ～



図1 母の年齢階級別にみた結婚期間が妊娠期間より短い出生の  
嫡出第1子出生に占める割合【全国】



注：割合は、結婚期間不詳を除いた嫡出第1子出生数に対する数値である。

2009年中に全国で最初の子どもを産んだ女性のうち、4人に1人が結婚前に妊娠したいわゆる「できちゃった結婚」だったことが、厚生労働省が先日公表した統計分析で明らかになりました。

若いほど割合が高いのが特徴で、2009年の統計では15～19歳が81.5%、20～24歳が63.6%、25～29歳が24.6%、30～34歳が12.1%、35歳以上では10.8%でした。【図1】都道府県別でみると、沖縄が(38.2%)で最も高く、次いで佐賀(33.3%)、青森(32.4%)の順で高く、低い順では滋賀(21.6%)、愛知(22.2%)、神奈川(22.7%)となっています。【図2】

図2 都道府県上・下3位(%)

上位	1位	沖 縄	38.2
	2位	佐 賀	33.3
	3位	青 森	32.4
下位	1位	滋 賀	21.6
	2位	愛 知	22.2
	3位	神 奈 川	22.7

次に、全国の年齢階級別出生率をみると、「30～34歳」の出生率(女性人口千対)が最も高く95.1となっており、順に「25～29歳」(86.4)、「35～39歳」(44.3)、「20～24歳」(35.6)となっており、都道府県別にみても約半数の都道府県で「30～34歳」の出生率が「25～29歳」の出生率を上回っています。合計特殊出生率の最も高い当県は、年齢階級別出生率を全国順位でみても「30～34歳」、「35～39歳」で1位で、「20～24歳」で2位、「25～29歳」で6位と上位を占めています。【図3】

図3 母の年齢階級別出生率(女子人口千対)・合計特殊出生率の都道府県上・下3位 - 平成21年 -

順位	出生率(女性人口千対)								合計特殊出生率		
	20～24歳		25～29		30～34		35～39		全国		
	全 国	35.6	全 国	86.4	全 国	95.1	全 国	44.3	全 国	1.37	
上位	1位	福 島	55.3	宮 崎	119.9	沖 縄	108.9	沖 縄	64.5	沖 縄	1.79
	2位	沖 縄	54.4	福 井	110.9	福 井	106.7	東 京	48.2	宮 崎	1.61
	3位	熊 本	50.9	島 根	110.6	滋 賀	105.8	神 奈 川	48.0	熊 本	1.58
下位	1位	東 京	21.6	東 京	57.4	青 森	77.3	秋 田	35.3	東 京	1.12
	2位	京 都	26.8	京 都	65.7	北 海 道	78.4	北 海 道	36.2	北 海 道	1.19
	3位	神 奈 川	27.1	奈 良	72.4	秋 田	79.3	青 森	37.3	京 都	1.20

注：数値の算出には、全国値は各歳別の女性の日本人口、都道府県値は5歳階級別の女性の総人口を用いた。

年少人口の割合が全国で最も高い沖縄ですが、その背景には出生率や合計特殊出生率の高さのみならず、若い世代での「できちゃった結婚」の割合の高さの影響もあるのかもしれない。

$$\text{出生率} = \frac{\text{年間出生数}}{\text{10月1日現在日本人口}} \times 1,000$$

$$\text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女性人口}} \right\} \text{ 15～49歳までの合計}$$

(都道府県別は5歳階級で算出し、5倍したものを合計している。)

